慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	コーポレート・ベンチャー・キャピタル投資を活用したイノベーションの創出
Sub Title	
Author	野間, 久史(Noma, Hisashi) 小林, 喜一郎(Kobayashi, Kiichiro)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2015
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2015年度経営学 第3081号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002015-3081

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（　　2015　年度）

論文題名

コーポレート・ベンチャー・キャピタル投資を活用したイノベーションの創出

主　査	小林　喜一郎　教授
副　査	中村　洋　教授
副　査	浅川　和宏　教授
副　査	

学籍番号	81430936	氏　名	野間　久史

論 文 要 旨

所属ゼミ	小林喜一郎研究室	学籍番号	81430936	氏名	野間　久史

（論文題名）

コーポレート・ベンチャー・キャピタル投資を活用したイノベーションの創出

（内容の要旨）

本研究は、超競争業界下にある ICT 企業がベンチャー企業のイノベーションを取り込む手段としてコーポレートベンチャー・キャピタル（以下 CVC）を活用する際の成功するための要因を、様々な先行研究から仮説を導出し事例研究を通じて分析、検証したものである。

企業間競争の基本条件が常に進化し続け、かつその進化の内容や方向性が予測困難な超競争業界では、ある程度の期間にわたって業界の競争構造を繰り返し破壊し続けることを意図的に行うことにより、一時的な競争優位であっても積極的に作り出すことができるかが成功のカギであると言える。特に、ICT 業界は超競争業界であり、大手グローバル ICT 企業はベンチャー企業を有効活用して、新技術、新市場、新たな方向性を探索し自社のビジネスを拡大しようとしている。これら企業が活用する CVC 投資を成功させるための要因を探る。

ICT 業界で CVC 投資を活用し事業を成功させているグローバル企業 2 社、日本国内企業 2 社を取り上げて仮説を検証したところ、当初設定した仮説とは異なる結果を得ることとなった。以下が本研究から得られた結果である。

【仮説】

超競争業界である ICT 業界において、CVC 投資が成功している企業には、
CVC の組織マネジメントに共通の成功要因が存在する。

【結論】

超競争業界である ICT 業界において、CVC 投資が成功している企業には、
CVC とベンチャーのビジネスデベロップメントを支援する組織を含めた組織マネジメントに共通の成功要因が存在する。

本研究の意義は以下の通りである。

① 大企業がコーポレート・ベンチャー・キャピタル投資を活用する有用性を示した。
② 大企業においてコーポレート・ベンチャー・キャピタル投資を実行する際に考慮しなければならない重要な CVC の組織マネジメントの指針を提示した。